

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	令和 4 年度第 2 回高松市創造都市推進審議会
開催日時	令和 5 年 2 月 2 0 日(月) 午後 1 時～午後 3 時
開催場所	高松市役所 3 階 3 2 会議室
議 題	( 1 ) 会長の選任等について ( 2 ) 第 3 次高松市創造都市推進ビジョン（仮称）の策定について ( 3 ) 第 2 次高松市創造都市推進ビジョンにおける取組について ( 4 ) その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	佐々木委員、原委員、二宮委員、中村委員、荒川委員、 香西委員、藤田委員、若井委員、桑島委員、杉ノ内委員
事務局	大西市長、中川創造都市推進局長、一原創造都市推進局参事、塩田産業経済部長、次田文化・観光・スポーツ部長、今池産業振興課長、末原農林水産課長補佐、南部観光交流課観光工リア振興室長、保井スポーツ振興課長補佐、高本子ども保育教育課長、平井産業振興課長補佐、岡本産業振興課創造産業係長、伊藤産業振興課主事
傍 聴 者	0 人      (定員 3 人)
担当課及び 連絡先	産業振興課 創造産業係 8 3 9 - 2 4 1 1

審議経過及び審議結果

1 開会  
(市長挨拶及び出席委員・事務局紹介)

2 会長選任等について

**香西委員が佐々木委員を会長に推薦し、他の委員も承認。**

**佐々木会長が原委員を副会長に指名。**

3 議題（２）第３次創造都市巢委員ビジョン（仮称）の策定について

【事務局】

（資料１について説明）

**市長から佐々木会長に諮問文手渡し（諮問）**

【事務局】

（資料２について説明）

3 議題（３）第２次創造都市推進ビジョンにおける取組について

【事務局】

（資料３・４について説明）

【会長】

第２次創造都市推進ビジョン策定期間の後半は、新型コロナウイルスの影響で、創造都市施策全般について、厳しい状況に置かれた。

こどもプロジェクトは全国的にみても特徴的なものである。また、高松市のU40（アンダーフォーティ）は、若い世代の市民から意見を聞く会であり、先進的な取組である。

今回は、委員改選後初めての会であるので、委員の皆さんに抱負を含めて意見を伺っていきたい。

【委員】

高松市には、ポテンシャルの高い市民が多くいると感じているが、行政との温度差があるのではないか。行政でどのようなことを行われようとしているのかを知ろうとしないといけないと思う。

例えば、新しい建物を建設する際に、そこで何をするのかを考えていかなければならない。行政が、どのようなビジョンを持って事業を予算

化しているのかを示して、市民を巻き込んだような仕組みができるクリエイティブなものが出てくるのではないか。

市民の中のクリエイティブな意見の吸い上げが、きちんとできていない点が高松市の足りないところだと思う。

#### 【委員】

子育て分野で活動しているが、コロナ禍で子育て環境は急展開している。平成29年から令和元年ぐらいまでは、大規模なイベントができていた。また、助産師訪問だったり、付き添い出産したりと、母親と子どもが色々な支援を受けながら、子育てをしていた。しかし、令和2年の新型コロナウイルスの流行を機に一変した。集まることが難しくなり、母親と子どもの孤独化が進んでいる。人と人が触れ合わなければ子どもは育たない。オンラインは、オフラインをしっかりと経験した人間が使うもので、初めからオンラインは使えないと思う。

子どもを産まないという選択をする人は、子育てに関係がないということではなく、子どもを産んでいない人でも子どもにかかわる人が多くいたり、地域全体で子どものことを見守っていたりというようなスタイルがクリエイティブに作られていけば、もしかしたら、出生数が増えることもあるかもしれない。子どもがいない人への、子育てのアプローチをしっかりと行っていくことが大事である。

#### 【会長】

このまま子どもが減り続ければ、社会に未来はない。母親だけが子育てをするのではなく、社会全体で子どもを育てることが大切である。高松市から新しい取組ができるとうい。

#### 【委員】

若い世代は、女性が意見をもって社会参画できる環境や教育が整っている一方で、50代以上の方は、そういった環境に恵まれず、学力や専門知識をいかせていないように思う。シニア世代のアカデミック層に向けての支援制度、例えば、シニア創業塾のような機関ができたらよい。

アクティブシニアが元気になることが、子育て世代に向けての励みにもなるし、これからアフターコロナを見据えた国際社会の機動力にもなるのではないか。

【会長】

子どもの創造性だけではなく、シニアの創造性を伸ばすことも、社会の活性化という点では必要なことである。

【委員】

子どもの頃から図書館をよく利用していた。サンクリスタルのリニューアル構想計画について、機会があれば、ぜひ参加したいと思う。

また、シェアリングエコノミー協会という、インターネットやデジタルを使って、すべての人が、様々な形で経済活動に参加できる社会の実現を目指した団体の四国支部長をしている。そういった視点からも意見を述べていきたい。

また、香川県が舞台となっている中国向けのネットドラマを全10話作成した。3月10日から動画サイトに掲載される。やしまーるも登場するので、皆様にぜひ紹介したい。

【委員】

資料を見ると、新型コロナウイルス感染症拡大防止策を講じた上で実施するという形で、書かれている箇所がたくさんある。

アフターコロナという言葉も出てきているが、意識が薄くなっているだけで、決して新型コロナウイルスが収まっている訳ではない。特に芸術関係の方は四苦八苦している。根強く、新型コロナへの不安感も残っている。

コロナ禍前のやり方で実施するのではなく、アフターコロナでの実施方法や周知の仕方等、活動に対する支援も検討していく必要がある。

【委員】

石材関連業者は衰退傾向にある。ものづくりの分野はどこも、同じような状況であり、後継者がいなくなったり、情報発信ができなくなったりする。

培った技術を他のものに使えないかということで、A J I P R O J E C Tを高松市牟礼庵治商工会が立ち上げたが、始めは良くても、どこを目的にするかが不明確なため、結局、解散しそうになっていた所を引き継いだ。高松市の取組は、どこまで出口を考えて、行っているのか知り

たいと思う。

【会長】

SDGsは、世界的にスタンダードな考え方になっている。石材もSDGsに関係している。有田焼のように海外のデザイナーやクリエイターとコラボした例もある。ぜひ、これまでにないアプローチを高松市で考えてほしい。

【委員】

農業の分野は、高齢化・担い手不足で見通しはよくない状況にある。資材の高騰の影響で、利益の出る作物を模索している。生産活動以外に時間を割けないので、皆様からアイデアをもらえたらと思う。

また、親の立場からみて、農業分野で子どもが生活していくのは将来的に難しいと感じるが、子どもに関する色々な事業があって、良い環境の中で子育てさせてもらったので、高松市で育った子どもたちが将来、香川県や高松市に戻ってきて、そこで生活をしていくというような形ができる施策に協力したい。

【会長】

大分県臼杵市がユネスコの食文化都市の認定を受けた。市役所が積極的に農業を進めるため、堆肥センターを設置した。

そのような先進的な事例もあるので、高松ブランド農産物育成事業の今後の展開についても、一緒に考えていきたい。

【委員】

コロナ禍で在宅勤務が主になったが、コミュニケーションが希薄になっているように感じる。ICTで解決できることは解決できると思うが、ハイブリッドな方法が必要だと感じている。また、最近よく話題になっている「ChatGPT」について使ってみたが、データによってはフェイクニュースになる可能性があるため、注意が必要だと思う。データをうまく制して、創造都市の推進に役立てたいと思う。

また、事業を行う際には指標を設け、その指標を超えることができたかどうかを確認する必要があると思う。今日の配布資料の中では、それぞれの事業にどのような課題があり、どのように解決しているかが見え

てこない。それを明らかにするべきではないか。

#### 【委員】

みんなの病院は、チェックリストによる自己評価と高松市立病院を良くする会からの評価を数値化して公表する仕組みがあり、それによって病院の評価を行っている。創造都市推進審議会の資料は、事業ごとに、実績、数値が出ているが、これが◎まで言えるのか、△なのか、或いは×なのか評価が分かりにくい。芸術文化のジャンルについて○や△をつけることが難しいことは理解できるが、予算をつける限り、そのような評価の仕組みは必要であると思う。

#### 【副会長】

他の委員の話を知っていると、高松の良さは皆が感じているところであるが、掲載されているプロジェクトを知らなかったという声もあり、対外的な発信と、この会の中での情報共有や情報交換を両立させ、課題に対して成果が出ているのか議論する必要があるだろう。

自分が専門としている分野しか見えなくなりがちだが、皆で情報や問題の共有を、横串を刺した形でうまく行えば、新しいことができていくと思う。この会では、各プロジェクトにどう落とし込んでいくのかというところまではできないかもしれないが、そこにつながっていくところを、ここで議論できるのではないか。

#### 【委員】

文化芸術振興審議会の委員も務めているが、創造都市推進審議会で使用する資料は、各審議会で検討したものをまとめたものである。それを全部出すと膨大な量になるので、必要な部分だけでよいのではないか。

#### 【会長】

オンライン社会が進む中で、対面の授業や対面の活動と、オンラインのバランスの問題は大切になってくる。

また、ビックデータといえども、1つ1つの情報の信ぴょう性は、大事なことである。人間の顔をした創造都市というのを目指すうえで、高松市が所管している事業について、きちんと評価していく必要がある。

**【事務局】**

創造都市推進審議会の流れとして、毎年2月頃に次年度の事業予定を、6月頃に前年度の事業実績を議題とし、審議いただいている。

各事業については、各課で作成している計画に紐づいているため、そちらで議論されているものもある。

しかし、ここ2・3年程は、新型コロナウイルスの影響で、主にイベントが実施できず、評価できていない状況である。

**【会長】**

一通り全員に発言してもらったが、他に質問や意見があれば述べてもらいたい。

**【委員】**

次期創造都市推進ビジョンの策定に当たり、高齢化社会を見据えた視点が必要ではないか。高齢者向けの事業が増えればよいと思う。

また、芸術士等の美術分野に関しては、予算が措置される一方で、音楽については、あまり予算が措置されない傾向もあるので、芸術へのサポートを公平にしてほしい。

また、リスキングの時代なので、どんどん学びなおしをしていく必要がある。デジタルの力を利用する等、行政主導で取り組んでもらえればよい。

**【会長】**

第2次ビジョンを策定する中で、プロジェクトを4つに絞った経緯がある。高齢化社会を見据えて、第3次ビジョンでは、シニアプロジェクトを新たに作成するのもよいだろう。

また、この審議会の中では、詳しい質問をする委員もいるので、審議会の中で回答できない場合は、事務局に個別に連絡いただいたら、回答できる。

**【委員】**

コロナ禍の間、観光誘客に係る事業は、難しい状況にあったが、回復の兆しが見えてきた中で、この分野に関する予算はどのようになっているのか。観光誘客キャンペーンや都市ブランディングは、すぐに成果が

出るというものでもなく、長く継続的に行わないと効果が出ないと思うので、ぜひこの令和5年度から、頑張っって長い目でやっていただきたい。

また、かがわ W i - F i が使いづらく、栗林公園では、夏休みに間に合うように、独自で W i - F i の整備を行っている。そのような状況がある中で「観光客受入環境整備事業」の事業計画について、果たして、このままでよいのだろうかと思う。

#### 【委員】

現在の創造都市推進ビジョンは、プロジェクトごとに縦のつくりになっているが、次期ビジョンでは、円のような形で作っていくのがよいのではないか。こども×高齢者、こども×工芸等、組み合わせはたくさん考えられる。

予算をつけて、支援をするというだけではなく、高齢者や子どもの持っている力を引き出して、かけ合わせる仕組みやきっかけというものを、この創造都市推進ビジョンの中に盛り込むということがクリエイティブなのではないかと思う。

今あるもの同士を組み合わせるような図にしたら良いのではないか。

#### 【委員】

シニア（高齢者）の話が出たが、高松市の中で高齢者を対象にした審議会があるのではないか。

#### 【事務局】

高齢者分野に限らず、子どもや文化芸術等それぞれを対象にした審議会は存在している。創造都市推進審議会ではそれらを横断的に扱っている。

#### 4 閉会